

《学部消息》

教授会メモ

2年6月20日（水）定例教授会

理学部4号館1320号室

議題

- (1) 人事異動報告
- (2) 奨学寄附金の受入れについて
- (3) 学部研究生の入学について
- (4) 人事委員会報告
- (5) 教務委員会報告
- (6) 教養学部連絡委員会報告
- (7) 国際交流委員会報告
- (8) 会計委員会報告
- (9) 企画委員会報告
- (10) 理学院計画委員会報告
- (11) 天文学教育研究センター長の撰出について
- (12) その他

2年7月18日（水）定例教授会

理学部4号館1320号室

議題

- (1) 人事異動報告
- (2) 物品寄附の受入れについて
- (3) 人事委員会報告
- (4) 教務委員会報告
- (5) 会計委員会報告
- (6) 企画委員会報告
- (7) 理学院計画委員会報告
- (8) その他

理学博士学位授与者

〔平成2年5月28日（4名）〕

専攻	氏名	論文題目
天文学	金光理	小狐座PU星の分光観測
物理学	佐々木健	バイプロニック系の磁気応答の理論
地球物理学	中澤哲夫	熱帯対流の階層構造とスーパークラスター
相関理化学	山本弘典	強い分子間相互作用を持つ分子性固体と2元系および3元系電荷移動錯体の紫外光電子分光法による研究

〔平成2年6月25日（7名）〕

物理学	吉潮濤	REPUTE-1逆転磁場ピンチにおける周辺乱流の実験的研究
相関理化学	手呂内伸之	根粒菌の初期感染過程の解析——非宿主植物の根毛のcurling
物理学	劉勇	離散時空格子上的非線形拡散系——移住過程の簡単なモデルとして
化学	諫山滋	コバルト(II)錯体の特性を活用する新しい有機合成反応の研究
物理学	上田望	重イオン用高周波四重極(RFQ)線型加速器の研究
情報科学	小野芳彦	日本文入力のためのTコードシステムとその練習システムの研究
数学	河東泰之	Π_1 型因子環上の群作用のコホモロジー

[平成2年7月17日 (2名)]

専攻	氏名	論文題目
化学	里中初	NMRスペクトルによるチオフエン誘導体の置換基効果に関する研究
物理学	鶴秀生	ネマティック液晶の連続体理論

人事異動報告

(講師以上)

所属	官職	氏名	発令年月日	異動内容	備考
化学	教授	橘和夫	平2. 6. 1	採用	
数学	講師	齋藤毅	平2. 6. 16	昇任	助手より
"	助教授	深谷賢治	平2. 7. 1	配置換	教養学部助教授より
植物	"	菊池淑子	"	採用	
中間子	客員助教授	齋藤理一郎	平2. 8. 1	併任	本務：電気通信大学助教授 期限：3. 31まで
化学	講師	林秀則	"	昇任	岡崎国立共同研究機構助教授へ
地質	助教授	伊藤谷生	平2. 8. 16	"	助手より

(助手)

所属	官職	氏名	発令年月日	異動内容	備考
生化学	助手	渡邊嘉典	平2. 6. 1	採用	
数学	"	古田幹雄	平2. 7. 1	昇任	教養学部助教授へ
"	"	小木會啓示	"	採用	
植物	"	杳掛和弘	"	昇任	広島大学生物生産学部助教授へ
人類	"	正高信男	"	転任	京都大学霊長類研究所助手より
地殻化学	"	佐野有司	平2. 8. 1	昇任	広島大学理学部助教授へ
"	"	遠嶋康徳	"	採用	
化学	"	鈴木薫	"	転任	岡崎国立共同研究機構助手へ
物理	"	相原博昭	平2. 8. 16	休職更新	平3. 8. 15まで
鉱物	"	工藤康弘	平2. 8. 31	"	平3. 2. 26まで

(職員)

所属	官職	氏名	発令年月日	異動内容	備考
物理	事務室主任	菅原貴子	平2. 6. 30	勸奨退職	
情報	事務官	入吉修	平2. 7. 1	配置換	技官より
事務部	"	能代久幸	平2. 8. 1	転任	北海道大学水産学部へ
植物園	技官	齋藤嘉一	"	採用	

外国人客員研究員報告

所属	受入れ教官	国籍	氏名	現職	研究員期間	備考
数学科	加藤 助教授	フランス共和国	Berthelot, Pierre	レンヌ大学教授	平2. 7. 19～ 平2. 8. 20	
物理学科	大塚 助教授	トルコ	Kuyucak, SEDER	メルボルン大学研究員	平2. 6. 21～ 平2. 7. 20	
"	藤森 助教授	連合王国	Fuggle, John, C	ナイメヘン大学物質科学研究所教授	平2. 9. 12～ 平2. 10. 25	
生物化学科	山本 教授	連合王国	Hughes, David, Anthony	Postdoctoral Fellow	平2. 6. 21～ 平3. 6. 20	
地学科	久城 教授	アメリカ合衆国	Johnson, Kevin, T.M	日本学術振興会外国人特別研究員	平2. 7. 19～ 平3. 6. 30	
"	島崎 教授	大韓民国	Yoon, Chung, Han尹 定 漢	全南国立大学校工科大学副教授	平2. 9. 1～ 平3. 8. 31	
"	田賀井助教授	ドイツ連邦共和国	Feuer, Helmut, Klaus	フランクフルト大学助手	平2. 6. 21～ 平2. 12. 4	

海外渡航者

(6月以上)

所属	官職	氏名	渡航先	期間	目的
物理	助手	北澤 良久	アメリカ合衆国	2. 9. 1～3. 8. 31	素粒子論及び場の理論の研究のため
素粒子	助教授	小林 富雄	スイス	2. 7. 19～3. 4. 14	超対称性粒子探索用プログラム開発及び国際協同実験電子・陽電子衝突実験のため
"	助手	川越 清以	スイス	2. 9. 22～3. 3. 31	国際協同実験電子・陽電子衝突実験のため
生物化学	"	飯 哲夫	オランダ	2. 9. 13～3. 9. 12	植物分子生物学に関する研究のため

平成2年度科学研究費補助金理学部申請・採択一覧表 (追加分)

平成2年8月15日現在

研究種目	申請件数		採択件数		採択率
	新規	継続	新規	継続	%
特別推進研究 (1)	0	0			
特別推進研究 (2)	2	1	2	1	100%
合計	2	1	2	1	100%

理学部長と理職の交渉

5月21日、6月18日、7月16日に理学部長と理学部職員組合（理職）の定例の学部長交渉が行われた。その主な内容は以下のとおりである。

1. 理学院計画について

5月交渉で理職は、理学部当局が理学院の概算要求を出す際に各教室にアンケート調査を実施し、現状でも事務官が70名不足とでた結果にもかかわらず、概算要求では、15名のみ増員とした理由を質した。学部長は、実現可能性を重視した数字であり、要求を繰り返して最終的に希望を満たす考えである、本年は事務職員のみ要求したが、来年度は技術職員を含めて要求する予定である、と回答した。

また理職が全学的な学院化の状況を質したのに対し、学部長は、理・法・工学部から概算要求が出された、と回答し、全学の大学院問題懇談会では、学生経費・積算校費・キャンパス問題等、全学に共通する事項についての討議を行うが、全学的な概算要求としてのとりまとめは行わない、従って部局毎の概算要求として提出され、特定の学部のものが認められる可能性もある、と述べた。

さらに、理職は理学部の中で試験的導入が検討されているTA (Teaching Assistant)・RA (Research Assistant, いずれも仮称) について、TAが全面的に導入されているアメリカでは、TA制度が大学院生にとって、研究に支障をきたす・博士号取得が遅れる等負担増加になっており、また学生への教育のレベルが低下する等、多くの問題点が起こっており、院生の教育にとってもプラスになっていないことを指摘した。また院生を歯止めなく労働させることになる懸念を表明して、慎重な検討を求めると共に、むしろ給費制の奨学金の新設や、授業料減免措置をとるべきであると主張した。学部長は種々の問題点は認識しつつも、当面は試験的な導入をして、様子を見ること、教職につくトレーニング的要素はありプラス面も多いと回答した。またRAは奨学金的なものとして考えている、と回答した。

TAの試行については、6月教授会で決定され、7月交渉で学部長は、冬学期から月50時間の教務補佐員

(月額約5万円程度)として雇用する、内容は教室が決定し、ヒアリングを行った上で公募をし、教務委員会で決定するとのプロセスを説明した。理職は、TA制度の試行の結果に対しては、各教室を通して調査するだけでなく、TAとなった院生に対し直接調査を行うよう求めたのに対し、学部長は、そのようにしたい、と回答した。

また理職は、学内PDF (Post Doctoral Fellowship) について、研究費がつかない点や、講座の人間を採用する点は、研究の自由や交流の観点から問題が大きいかを指摘し、再検討するよう求めた。学部長は、学内PDFについては、研究費をつける・自分の研究室の人は採用しない・指導教官には直接指導した人を選ぶ権利をなくす等の工夫が必要であり、また他大学と同時に導入しないと交流面で意味がない、との考えを表明した。

2. 技術職員の組織化について

5月交渉で、理職は組織規程及びそれに基づく人事上申の状況を尋ねた。学部長は、前々週に主任会議で説明し、技官への説明会を開いたうえ、質問を受け、5月17日に上申したと答えた。岩槻技官問題検討小委員会委員長は、運用規定は、1年くらいかけて整備する予定で、研修については、田沢委員会の方針を受け継いで、5月30日から検討を始めると述べた。また研修の費用について学部長は、概算要求の重点項目として出している、今年度については、理学部の予算の中で実現する方向で技術研修専門委員会で検討してもらう、と述べた。

6月交渉で、理職は技官の組織図を組合に手交することを要求し、学部長は了承した。理職が人事について質したところ、学部長は、原則として号俸が高く専門的・特殊技能をもっている人を上位ポストにつけた。出来るだけ不公平にならないようにしたい、と述べた。

7月交渉で、理職は、本部の研修案として全学で30名の定員とするという案が検討されているらしいが、これでは人数が少なすぎて、選別のための研修になってしまう危険性があると指摘した。事務長は、まだ原案以前の段階であり、今後検討していきたい、と述べ

た。

3. 職員の昇格・昇級等の待遇改善について

5、6月の交渉で、理職は理学部の事務主任ポストが他部局に比べて少ないことを指摘し、改善を要望した。事務長は、昨年は事務室主任の要求を中心に出したので、今年は、事務主任を重点的に要求しているとは回答し、学部長は、改善されるよう努力すると回答した。

7月交渉で理職は、女性の掛主任発令が男性に比して著しく遅い事態の改善を重ねて要望した。さらに、今年実現した一学科複数主任を、1名の主任の退職後も確保するよう要望した。事務長は努力したいと回答した。

5月の交渉で、理職は図書職員のうち定年が近い人の昇格を強く要望し、事務長は努力すると回答した。しかし、6月の定数配分では、該当者の昇格は実現できなかったため、7月交渉で理職は、暫定定数での昇格ができるよう要望した。事務長は、努力すると回答した。

7月交渉で理職は、施設系技術職員の昇格の見通しについて質問し、事務長は昨年からの要望していると回答した。

4. 行(二)から行(一)へのふりかえ

理職は、事務を行っている人の、行(二)から行(一)へのふりかえを、早期に行ってほしいと要望した。事務長は、全学的に対象者が多く、なかなか困難であるが努力していると述べた。

5. 教務職員の助手化

5月交渉で学部長は、教務職員助手化の概算要求を提出した、と述べた。6月交渉で理職は、技官組織運用規程を検討する際に、教務職員を含めるかどうかを各教室に打診を行った理由を質した。学部長は、可能性の一つとして調査したのであると回答した。

理職は、理学部が助手化の概算要求を出していること、総長交渉でも教務職員は技官組織化に含めないとの全学の方針が確認されていること、行政職への振り替えは、処遇改善の上で多くの困難があること(その後の昇格も在級年数の制約を受ける等)を指摘し、教務職員問題の解決のためには、教務職員の助手振り替えと制度そのものの廃止が最善策であり、現理学部の助手化の方針を、貫徹しよう要望した。学部長は、理職の主張を了承した。また、現在高位号俸の人については、雇用した者として責任があると考えているので、なるべく早く助手化するよう努力したい、その方針は理学院に変わることがあっても同じである、と回答した。

6. 行政職員の海外研修について

7月交渉で、理職は、本年度新たに発足した学内措置による行政職員の海外研修制度について、職員への情報伝達に教室間で対応が違ったこと、締切までの時間が著しく短かった点を問題とし、改善を求めた。また4-7月の間も使えるようにしてほしいと要望した。学部長は、次年度からは問題が起こらないようにしたい、と述べた。

7. その他

5月交渉で学部長は、柏に広域理学院を作ること、1号館の改築を概算要求として提出したと述べた。

6、7月交渉で理職は、人事院勧告で一時金の支給額が、級・号俸などで傾斜をつけるとの勧告が出される可能性が高いことを指摘し、これは差別であり、労働意欲を減退させること、もともと待遇が悪い大学ではさらに被害が大きくなることから、強い反対の意志を表明すると共に、学部長として反対の行動をとるよう要望した。学部長は、個人的な意見ではあるが、差別的な支給が行われることは望ましくなく、機会があれば反対の意志を表明したい、と述べた。